

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長  
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第2号を下記のとおり発表したの送付します。

平成26年度病虫害発生予報第2号

平成26年 5 月 1 日  
岡 山 県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	苗立枯れ(もみ枯細菌病による苗腐敗)	—	並	モモ	ナシヒメシクイ	並	やや少
	ヒメトビウンカ	—	少		カメムシ類	並	多
	縞葉枯病	—	並		ブドウ	灰色かび病	並
	ツマグロヨコバイ	—	少	べと病		並	並
	萎縮病	—	並	キュウリ等	灰色かび病	—	やや多
イネミズゾウムシ	並	並	—			—	—
麦類	アブラムシ類	—	やや多	イチゴ	うどんこ病	—	やや少
	ヤノハモグリバエ	—	やや多		タマネギ	べと病	—
ジャガイモ	疫病	並	並	ナス等	ミナミキイロアザミウマ	—	並
モモ	灰星病	やや遅	やや少	アブラナ科	アブラムシ類	—	並
	黒星病	並	並		野菜	コナガ	やや遅
	せん孔細菌病	並	やや少	キク	アブラムシ類	—	やや多
	褐さび病	並	並			—	—
モモハモグリガ	—	並					
ウメシロカイガラムシ	やや早	並					

## 1. 普通作物

### (水 稲)

#### (1) 苗立枯れ (もみ枯細菌病による苗腐敗)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 昨年のもみ枯細菌病の発生は平年並であったことから、種籾の伝染源量は平年並と考えられる。

イ. 4月24日の季節予報(1か月予報)によると、気温および降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

#### (2) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ(第1世代幼虫) 少  
縞葉枯病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくい取り虫数は3頭で平年(148.8頭)より少なかった。

イ. 県予察圃場(休閑田)におけるイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率は17.7%で、平年(4.6%)より高かった。

#### (3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ(第1世代幼虫) 少  
萎縮病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくいとり虫数は0頭で平年(53.8頭)より少なかった。

イ. 萎縮病は一般圃場において近年ほとんど発生が認められない。

#### (4) イネミズゾウムシ

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 4月24日の季節予報(1か月予報)によると、気温はほぼ平年並とされており、越冬後成虫の本田への飛込み時期は平年並と考えられる。

イ. 近年、本田での発生密度は減少～横ばい傾向にある。

### (麦 類)

#### (1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月22日の巡回調査によると、発生圃場率は82.6%で平年(73.0%)よりやや高かったが、発生程度は軽微であった。

#### (2) ヤノハモグリバエ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月22日の巡回調査によると、発生圃場率は30.4%で平年(19.1%)よりやや高かった。

防除上の参考事項

ア. 被害はオオムギで多く、コムギで少ない。多発地帯では水田裏作とし

たり、コムギに転換する。

## (ジャガイモ)

### (1) 疫病

予報内容

発生時期                    並                    発生量                    並

予報の根拠

ア. 4月21～22日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 4月24日の季節予報（1か月予報）によると、気温および降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

## 2. 果 樹

### (モ モ)

#### (1) 灰星病

予報内容

発生時期                    やや遅                    発生量                    やや少

予報の根拠

ア. 4月21日の巡回調査（南部）では、花腐れの発生圃場率は0%で平年（14.0%）より少なかった。

イ. 4月24日の季節予報（1か月予報）によると、気温および降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

#### (2) 黒星病

予報内容

発生時期                    並                    発生量                    並

予報の根拠

ア. モモの生育はほぼ平年並で推移している。

イ. 4月21日の巡回調査（越冬病斑調査）では、発生量は平年並であった。

ウ. 4月24日の季節予報（1か月予報）によると、気温および降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

#### (3) せん孔細菌病

予報内容

発生時期                    並                    発生量                    やや少

予報の根拠

ア. モモの生育はほぼ平年並で推移している。

イ. 前年の発生量はやや少なかったことから、伝染源の越冬量も平年より少ないと考えられる。

ウ. 4月24日の季節予報（1か月予報）によると、気温および降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

#### (4) 褐さび病

予報内容

発生時期                    並                    発生量                    並

予報の根拠

ア. モモの生育はほぼ平年並で推移している。

イ. 4月24日の季節予報（1か月予報）によると、気温および降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

#### (5) モモハモグリガ（第1世代成虫）

予報内容

発生量                    並

予報の根拠

ア. 4月22日の巡回調査（南部）では、発生圃場率は7.1%で平年（4.3%）並であった。

イ. 県予察圃場のフェロモントラップによると、4月1～5半旬までの誘殺数は1頭で、平年（9.9頭）より少なかった。

ウ. 4月24日の季節予報（1か月予報）によると、気温はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(6) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生時期 やや早 発生量 並

予報の根拠

ア. 越冬世代成虫の50%抱卵日は4月16日と推定され、平年（4月20日）よりやや早かった。なお、予測式から防除適期（幼虫ふ化最盛日）は5月4日頃と予測される。

イ. 越冬雌成虫の生存率は89.0%で平年（88.7%）並であった。

(7) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、誘殺最盛日は4月10日であり、平年（4月11日）並であった。

イ. 4月1～5半旬の誘殺数は19頭で平年（38.7頭）より少なかった。

(8) カメムシ類

予報内容

発生時期 並 発生量 多

予報の根拠

ア. 前年2月～5月のスギ・ヒノキの花粉飛散数を利用した予測式によると、本年4～7月の予察灯への飛来予測数は、チャバネアオカメムシは赤磐市が1175.7頭（平年496.5頭）で平年より多く、津山市が361.5頭（平年327.5頭）で平年並と予想される。クサギカメムシは赤磐市が53.9頭（平年17.1頭）、津山市が441.6頭（平年198.0頭）でともに平年より多いと予測される。

防除上の参考事項

ア. 病害虫発生予察注意報第1号（平成26年4月24日発表）参照。

(ブドウ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育はほぼ平年並で推移している。

イ. 4月24日の季節予報（1か月予報）によると、気温および降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) ベと病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育はほぼ平年並で推移している。

イ. 4月24日の季節予報（1か月予報）によると、気温および降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. ブドウベと病に登録のあるストロビルリン系及び作用点が同一の殺菌剤（アゾキシストロビン剤、クレソキシムメチル剤、ファモキサドン

剤) に対して感受性が低下した耐性菌が本県の一部で確認されている。本系統の殺菌剤の使用は1作期1回とし、他系統の殺菌剤とできるだけ組み合わせ使用(平成24年4月6日発表の植物防疫情報第2号参照)。

### 3. 野菜

(キュウリ、ナス、トマト、イチゴ)

#### (1) 灰色かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月21~22日の巡回調査によると、イチゴでは発生圃場率が20.0%で  
平年(18.7%)並、トマトでは100%で平年(36.8%)より高かった。キ  
ュウリ、ナスでは発生を認めず平年(0%)並であった。

イ. 4月24日の季節予報(1か月予報)によると、気温および降水量はほ  
ぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(イチゴ)

#### (1) うどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月21~22日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(12.3  
%)より低かった。

イ. 4月24日の季節予報(1か月予報)によると、気温および降水量はほ  
ぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(タマネギ)

#### (1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月21~22日の巡回調査では発生圃場率は33.6%で平年(36.6%)並  
であった。

イ. 4月24日の季節予報(1か月予報)によると、気温および降水量はほ  
ぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(ナス、キュウリ)

#### (1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月21~22日の巡回調査によると、キュウリ、ナスでの発生量は平年  
並であった。

イ. 4月24日の季節予報(1か月予報)によると、気温および降水量はほ  
ぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(アブラナ科野菜)

#### (1) アブラムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1~5半旬の黄色水盤への飛来数は253頭で、平年  
(185.2頭)よりやや多かった。

イ. 4月21～22日の巡回調査によると、ダイコンでの発生圃場率は0%で  
 平年（7.0%）より低く、ハクサイでは25.0%で平年（41.3%）より低か  
 った。

ウ. 4月24日の季節予報（1か月予報）によると、気温および降水量はほ  
 ぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(2) コナガ

予報内容

発生時期            やや遅            発生量            やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬のフェロモントラップの誘殺数は22頭  
 で、平年（22.5頭）並であった。

イ. 4月21～22日の巡回調査によると、ダイコン、ハクサイでの発生圃場  
 率は0%で平年（14.3%）より低かった。

ウ. 4月24日の季節予報（1か月予報）によると、気温および降水量はほ  
 ぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

4. 花き類

(キ ク)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量            やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は253頭で、平年  
 （185.2頭）よりやや多かった。

イ. 4月22～23日の巡回調査によると、発生量はやや多かった。

ウ. 4月24日の季節予報（1か月予報）によると、気温および降水量はほ  
 ぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、  
 [http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239) です。